

介護職員初任者研修 情報公開

研修 機 関 情 報	法人情報	<p>◆法人名 合同会社ほととぎす 〒889-2151 宮崎県宮崎市大字熊野9902-3</p> <p>◆代表者名 代表社員 松島 靖則（研修事業責任者）</p> <p>◆事業概要 平成24年4月1日より宮崎市大字熊野9902-3にて事業を開始し、訪問介護事業、介護タクシー事業、介護ヘルパー育成事業を運営している。</p>
	研修機関情報	<p>◆事業所名 合同会社ほととぎす</p> <p>◆理念 多様化するニーズに対応した適切なサービスを提供できる人材を育成し、社会福祉に貢献する。</p> <p>◆学則 別紙参照</p> <p>◆研修施設、設備 研修施設名：FGひばり 3F 設備：介護ベッド、ポータブルトイレ、車イス等</p>
研修 事 業 情 報	研修の概要	<p>◆対象 研修期間通学が可能で心身ともに健康な者</p> <p>◆研修のスケジュール 期間：平成26年8月18日～平成26年10月22日 日程：上記期間の土日祝日を除く平日18時～21時 （詳細については別紙参照） 時間数：130時間</p> <p>◆定員と指導者数 定員：20名 指導者数：3名</p>

研修事業情報	研修の概要	<p>◆研修受講までの流れ</p> <p>募集：チラシの配布、ホームページ等により研修開催を通知し、受講希望者には、受講申込書を送付する。</p> <p>申込：受講申込書をFAXまたは郵送にて送付し、指定期日までに受講料とテキスト代を納入する。</p> <p>◆費用</p> <p>受講料：33,731円 テキスト代：6,069円</p> <p>◆受講者へのメッセージ</p> <p>介護業界に興味があり、やる気がある方であれば年齢・性別問わず歓迎します。</p>												
	課程責任者	<p>◆課程編成責任者名</p> <p>松島 靖則</p>												
	研修カリキュラム	<p>◆科目別シラバス</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">職務の理解（6h）</th> </tr> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">研修目標</td> <td>研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的イメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようにする。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">指導のポイント</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・研修課程全体（130時間）の厚生と各研修科目（10科目）相互の関連性の全体像をあらかじめイメージできるようにし、学習内容を体系的に整理して知識を効率・効果的に学習できるような素地の形成を促す。 ・視聴覚教材等を工夫するとともに、必要に応じて見学を組みあさせるなど、介護職が働く現場や仕事の内容を、出来る限り具体的に理解させる。 </td> </tr> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">介護における尊厳の保持・自立支援（9h）</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">研修目標</td> <td>介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動を理解している。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">指導のポイント</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事例を複数示し、利用者およびその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基いたケアを行うことの違い、自立という概念に対する気づきを促す。 ・具体的な事例を複数示し、利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化の防止・遅延化に資するケアへの理解を促す。 ・利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考えさせ、尊厳という概念に対する気づきを促す。 </td> </tr> </table>	職務の理解（6h）		研修目標	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的イメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようにする。	指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・研修課程全体（130時間）の厚生と各研修科目（10科目）相互の関連性の全体像をあらかじめイメージできるようにし、学習内容を体系的に整理して知識を効率・効果的に学習できるような素地の形成を促す。 ・視聴覚教材等を工夫するとともに、必要に応じて見学を組みあさせるなど、介護職が働く現場や仕事の内容を、出来る限り具体的に理解させる。 	介護における尊厳の保持・自立支援（9h）		研修目標	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動を理解している。	指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事例を複数示し、利用者およびその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基いたケアを行うことの違い、自立という概念に対する気づきを促す。 ・具体的な事例を複数示し、利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化の防止・遅延化に資するケアへの理解を促す。 ・利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考えさせ、尊厳という概念に対する気づきを促す。
	職務の理解（6h）													
研修目標	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的イメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようにする。													
指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・研修課程全体（130時間）の厚生と各研修科目（10科目）相互の関連性の全体像をあらかじめイメージできるようにし、学習内容を体系的に整理して知識を効率・効果的に学習できるような素地の形成を促す。 ・視聴覚教材等を工夫するとともに、必要に応じて見学を組みあさせるなど、介護職が働く現場や仕事の内容を、出来る限り具体的に理解させる。 													
介護における尊厳の保持・自立支援（9h）														
研修目標	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動を理解している。													
指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事例を複数示し、利用者およびその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基いたケアを行うことの違い、自立という概念に対する気づきを促す。 ・具体的な事例を複数示し、利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化の防止・遅延化に資するケアへの理解を促す。 ・利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考えさせ、尊厳という概念に対する気づきを促す。 													

研修事業情報

研修カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待を受けている高齢者への対応方法についての指導を行い、高齢者虐待に対する理解を促す。 	
	介護の基本（6h）	
	研修目標	介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気付き、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援をとらえる事ができる。
	指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り具体例を示す等の工夫を行い、介護職に求められる専門性に対する理解を促す。 ・介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解するとともに、場合によってはそれに一人で対応しようとせず、サービス提供責任者や医療職と連携することが重要であると実感できるよう促す。
	介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9h）	
	研修目標	介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。
	指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度・障害者自立支援制度を担う一員として、介護保険制度の理念に対する理解を徹底する。 ・利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し、その生活を支援するために介護保険制度、障害者自立支援制度、その他制度のサービスの位置づけや、代表的なサービスの理解を促す。
	介護におけるコミュニケーション技術（6h）	
	研修目標	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。
	指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考えさせ、相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることへの気づきを促す。 ・チームケアにおける専門職種でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに、記録等を作成する介護職一人ひとりの理解が必要であることへの気づきを促す。
	老化の理解（6h）	
	研修目標	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することへの重要性に気付き、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。
	指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に多い心身の変化、疾病の症状等について具体例を挙げ、その対応における留意点を説明し、介護において生理的側面の知識を身に付けることの必要性への気づきを促す。
	認知症の理解（6h）	
	研修目標	介護において認知症を理解することの重要性に気付き、認知症の利用者を介護するときの判断となる原則を理解している。

研修事業情報

研修カリキュラム	指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の利用者の心理・行動の実際を示す等により、認知症の利用者の心理・行動を実感できるよう工夫し、介護において認知症を理解することの必要性への気づきを促す。 ・複数の具体的なケースを示し、認知症の利用者の介護における原則についての理解を促す。
	障害の理解（3h）	
	研修目標	障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。
	指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・介護において障害の概念とICFを理解しておくことの必要性の理解を促す。 ・高齢者の介護との違いを念頭におきながら、それぞれの障害の特性と介護上の留意点に対する理解を促す。
	こころとからだのしくみと生活支援技術（75h）	
	研修目標	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全解除等の介護が実施できる。 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。
	指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的な知識を介護の流れを示しながら、視聴覚教材や模型を使って理解させ、具体的な身体各部の名称や機能等が列挙できるように促す。 ・サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供しかつ不満足を感じさせない技術が必要なることへの理解を促す。 ・例えば、「食事の介護技術」は、「食事という生活の支援」と捉え、その生活を支える技術の根拠を身近に理解できるように促す。さらに、その利用者が満足する食事を提供したいと思う意欲を引き出す。他の生活場面でも同様とする。 ・「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるように、身近な素材からの気づきを促す。
	振り返り（4h）	
	研修目標	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。
	指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅、施設の何れかの場合であっても、「利用者の生活の拠点に共に居る」という意識を持って、その状態における模擬演習（身だしなみ、言葉遣い、対応の態度等の礼節を含む。）を行い、業務における基本的態度の視点を持って介護を行えるよう理解を促す。 ・研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを演習等で受講者自身に表出・言語化させた上で、利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について講義等により再確認を促す。 ・修了後も継続的に学習することを前提に、介護職が身に付け

研修カリキュラム

指導のポイント

るべき知識や技術の体系を再掲するなどして、受講者一人ひとりが今後何を継続的に学習すべきか理解できるよう促す。

- ・最新知識の付与と、次のステップ（職場環境への早期適応等）へ向けての課題を受講者が認識できるよう促す。
- ・介護職の仕事内容や働く現場、事業所等における研修の実例等について、具体的なイメージをもたせるような教材の工夫、活用が望ましい。（視聴覚教材、現場職員の体験談、サービス事業所における受講者の選択による実習・見学等）

◆科目別担当教官

科目	担当講師名
1. 職務の理解	田崎
2. 介護における尊厳の保持・自立支援	田崎・丸山
3. 介護の基本	丸山・四位
4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	田崎・四位
5. 介護におけるコミュニケーション技術	田崎・丸山
6. 老化の理解	田崎
7. 認知症の理解	田崎
8. 障害の理解	丸山
9. ところとからだのしくみと生活支援技術	田崎・丸山・四位
10. 振り返り	田崎

◆科目別特徴

1. 職務の理解
 - (1) 多様なサービスの理解
 - (2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解

2. 介護における尊厳の保持・自立支援
 - (1) 人権と尊厳を支える介護
 - (2) 自立に向けた介護

3. 介護の基本
 - (1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携
 - (2) 介護職の職業倫理
 - (3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント
 - (4) 介護職の安全

4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携
 - (1) 介護保険制度
 - (2) 医療との連携とリハビリテーション
 - (3) 障害者自立支援制度およびその他制度

5. 介護におけるコミュニケーション技術
 - (1) 介護におけるコミュニケーション
 - (2) 介護におけるチームのコミュニケーション

6. 老化の理解
 - (1) 老化に伴うところとからだの変化と日常
 - (2) 高齢者と健康

研修カリキュラム

7. 認知症の理解

- (1) 認知症を取り巻く状況
- (2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理
- (3) 認知症に伴うところとからだの変化と日常生活
- (4) 家族への支援

8. 障害の理解

- (1) 障害の基礎的理解
- (2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、
かかわり支援等の基礎的知識
- (3) 家族の心理、かかわり支援の理解

9. ところとからだのしくみと生活支援技術

- (1) 介護の基本的な考え方
- (2) 介護に関するところのしくみと基礎的理解
- (3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解
- (4) 生活と家事
- (5) 快適な居住環境整備と介護
- (6) 整容に関連したところとからだのしくみと自立にむけた
介護
- (7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に
向けた介護
- (8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた
介護
- (9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと
自立に向けた介護
- (10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた
介護
- (11) 睡眠に関するところとからだのしくみと自立に向けた
介護
- (12) 死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期
介護
- (13) 介護過程の基礎的理解
- (14) 総合生活支援技術演習

■実技内容・備品

- ・整容の介助…電動ベッドを使用したベッドメイ
キング、衣服を使用した着脱
- ・移動・移乗の介助…車イス・杖を使用した移動
移乗の介助、電動ベッドを
使用した体位変換の介助
- ・食事の介助…アイマスクを使用した食事介助、
口腔ケア
- ・入浴・清潔保持…簡易浴槽を使用した入浴介助、
部分浴介助、清拭
- ・排泄の介助…ポータブルトイレを使用した排泄
介助
- ・睡眠の介助…電動ベッドを使用した睡眠介助

研修事業情報	研修カリキュラム	<p>■指導体制 現場経験豊富な講師が必要な知識、技術の修得が行われるまで指導を徹底する。また、福祉用具の使用方法についても指導を行う。</p> <p>10. 振り返り (1) 振り返り (2) 就業への備えと研修終了後における継続的な研修</p>
	修了評価	<p>◆修了評価の方法、評価者、再履修等の基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修了評価の方法…全科目を受講し、基本的介護技術を習得したと認められる者に筆記試験で修了評価を行う。6割以上の正解をもって修了者と認定する。 ・修了評価者…田崎 佳子 ・再評価…筆記試験で6割未満だった者に対して本人の申し出により再試験を行う。但し、再試験は2回までとする。
講師情報	講師情報	<p>◆名前、略歴、現職、資格</p> <p>【田崎 佳子】 (略歴) 訪問介護事業所にて介護士、介護福祉士として7年勤務 グループホームにて介護福祉士、介護支援専門員として1年9ヵ月勤務 小規模多機能施設にて介護福祉士、介護支援専門員として1年10ヵ月勤務 (現職) 合同会社ほととぎす非常勤講師 (資格) 介護福祉士、介護支援専門員</p> <p>【丸山 武】 (略歴) 老人保健施設にて介護士、介護福祉士として4年10ヵ月勤務 (現職) 宅老所にて介護福祉士、施設長として7年5ヵ月勤務 (資格) 介護福祉士</p> <p>【四位 実】 (略歴) デイサービスにて介護士として5年2ヵ月勤務 グループホームにて介護支援専門員として4ヵ月勤務 (現職) 居宅介護支援事業所にて介護支援専門員として2年7ヵ月勤務 (資格) 介護支援専門員</p>

実績情報	実績情報	<p>◆過去の研修実施回数（年度毎） 平成24年度 訪問介護員養成研修2級課程 2回開催 平成26年度 介護職員初任者研修 1回開催</p> <p>◆過去の研修延べ参加人数（年度毎） 平成24年度 16名 平成26年度 15名</p>
連絡先等	連絡先等	<p>◆申込・資料請求先 合同会社ほととぎす 〒889-2151 宮崎市大字熊野9902-3 TEL：0985-55-0418 FAX：0985-55-0417</p> <p>◆法人の苦情対応者名・役職・連絡先 総務部長：花原 正和 TEL：0985-55-0418 FAX：0985-55-0417</p> <p>◆事業所の苦情対応者名・役職・連絡先 総務部長：花原 正和 TEL：0985-55-0418 FAX：0985-55-0417</p>